

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4335
23年3月28日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

戦争と国防費

おはようございます。

ロシアのウクライナ侵攻から一年が過ぎたが、戦争はなかなか止められない。侵略から一年を前にしての二月、国連は「ロシアの撤兵とウクライナに平和を」の決議を七割の賛成で決議したが、ロシアはこれに従わない。国連の安全保障の常任理事国が、国連決議を無視する姿は、世界の平和を遠のさせる。

ところでこの決議に反対や棄権などの五三カ国は、どういう理由で賛成しなかったのだろうか。
この戦争を「容認」する立場とはなんだろうか。
一つはつきりいえるのは、自由経済のもとで、欧米の新自由主義の大国に搾取され、貧困と格差にある中小諸国の実態があるのか。

戦争はなぜ起こるのか。
週刊・金曜日で東京大学大学院の遠藤乾教授は、
①現状変更への意思があり、②その力を持ち、③独裁を敷く国(の指導者)が戦争を決意したら、戦争を止めることは非常に難しいと、書いている。
その中では、

防衛費比較		2000年	2020年		
国名	人口	国防費、		国民一人 当たり	増減比
米	3.3 億人	38 兆円	96 兆円	29 万円	2.5 倍増
ロシア	1.5 億人	7.5 兆円	5.5 兆円	3.9 万円	75%に減
中国	12 億人	5.3 兆円	25 兆円	1.8 万円	4.7 倍増
日本	1.2 億人	5.7 兆円	6.4 兆円	5 万円	11%増
韓国	5100 万人	1.5 兆円	5.2 兆円	10 万円	3.5 倍増
北朝鮮	2500 万人	0.3 兆円	0.7 兆円	3 万円	2.3 倍増
台湾	2380 万人	2.2 兆円	1.8 兆円	7.6 万円	20%減
世界	78 億人	105 兆円	235 兆円	3 万円	2.2 倍増

「単に平和主義を掲げているから戦争は回避できるわけではない」ともいう。現実の戦争があることから、教授は平和主義の現実的グレードアップを行うべきだとも語る。要するに近隣諸国の脅威に軍事的に備えろ、ということだろう。

こうした声などを背景に岸田総理は、自らウクライナを訪問し、支援を約束する一方、アメリカからは五百発のトマホークの武器の爆買いをし、敵基地攻撃の意図を強めている。

国内では、飛来するミサイルなどから「身を守る」ためのシェルターが、対前年比で六倍も売れているという。もちろん一基で七百八十万円もするこの「最後の砦」と名前がつくシェルターは、富裕層しか買えないが・・・。

欧州での戦争が、東アジアでも軍事的緊張を高め、中国の軍事的急成長も、台湾有事を招き、さらには北朝鮮のミサイル発射などで、日本も戦争に巻き込まれる情勢だ！と、このあると、テレビで煽られる。

しかしその背景には、世界の防衛費の四割を有するアメリカの防衛費の額の多さにもある。そのアメリカの政治家が台湾を訪ね、「台湾有事に米軍は参戦」と公言し、緊張を高める。しかし防衛費の数字だけを見ると、台湾はこの二十一年間で軍事費は二割も減少している。台湾有事の中、ありえない数字だと思いが・・・。

台湾は中国の領土なので米軍基地はなく、この戦争には沖縄米軍が派兵される。こうして沖縄や先島諸島が、台湾有事を口実に要塞化されていくことは、平和主義とはいえない。外交努力と話し合い以外に戦争を止めること

ができないことは自明だ。互いに相手を非難しあうだけでは希望は見えない。平和主義は現実、最高の政治的手段で、空論ではないのだ。

(数字はデータブック・ワールド2022年版)

*** **

春、野球の季節に

春、野球の季節到来。WBCは日本の劇的な勝利で、大いに沸いた。始まる前、ダルビッシュが「戦争に行くわけではないので・・・楽しみたい」とコメントしたこと



そして春の甲子園が始まった。長崎県(九州)の代表として海星と長崎日大が出たが(日曜日現在)、海星だけが三回戦に進んでいる。次は秋の明治神宮杯の準備勝の広島・広陵が相手、厳しい闘いとなりそうだ。がんばれ、海星。

なかでも海星の二番ライトで出ている山口頼愛君は、ユニオン長崎の元組合員の田崎さん

WBCでのかつての日本代表は「日の丸を背負って」という悲壮感もあったが、こんどはなにか明るかった。それもこれも大リーグには負けていない、という大谷やダルビッシュの存在感があっ

のお孫さんだ。田崎さんのご家族(娘さんとお孫さん)は、ユニオンの海水浴でスイカ割を遊んでおられた小学生のころの姿が思い出される。こちらにも応援したい。

